

＜先週の説教から＞

『ルカ ③—その一人一人に手を置いて』

武田真治牧師

創世記 48:12~16 ルカ福音書 4:38~41

今日の聖書の箇所は「シモンのしゅうとめが高い熱に苦しんでいたの、人々は彼女のことをイエスに頼んだ。イエスが枕もとに立って熱を叱りつけられると、熱は去り、彼女はすぐに起き上がって一同をもてなした。」という病気の癒やしのお出来事です。とても日常的な癒やしであり、人々を驚かすような奇跡でも、イエス様の力を示すものでもないのに、この事はマタイ福音書もマルコ福音書も記しています。どうして、このささやかな出来事が記されているのでしょうか？

いくつかの理由が考えられているのですが、一番はこの家が「シモンの家」であったからと考えられます。

シモンとは、イエス様の一番弟子になったシモン・ペトロのことです。従って、この「しゅうとめ」とはペトロのしゅうとめということになります。従って、彼は既に結婚しており、かつ、その連れ合いの母親と一緒に住んでいたということです。また、それよりも大事な点は、この「家」が、実はイエス様が公に伝道を開始されたガリラヤの町カファルナウムでの伝道の拠点場所であったということです。

4章 31 節以下で、イエス様はカファルナウムのユダヤ教の会堂で説教を為された後に「会堂を立ち去り、シモンの家にお入りになった」とあります。そしてここに「日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。」とあり、「その一人一人に手を置いていやされた」のでした。このことは、まさにこの日だけでなく、既にイエス様の活動場所となっていたから、人々は前もってこの家を目指して病人を連れて来るのが可能だったのです。しかも、ここで「しゅうとめ」は、熱病が快癒した後「一同（＝イエス様と弟子たちも含む）をもてなした（＝奉仕した）」のでした。このことも”イエス様の伝道に加えられた”働きだったのです。

また、実はこの後、伝道者パウロの手紙を読むと、ペトロが各地に伝道旅行をする際に「妻を連れていた」ということが

書かれています。まさにこの「シモンのしゅうとめ」の娘であるペトロの妻も、キリスト者となり、ペトロと一緒に伝道をしていただということが分かるのです。

ルカ福音書はイエス様の初期の伝道の様子をここで記しているのですが、それは信仰者の「家」を拠点として為されたこと、それはこの後のキリスト教の伝道形態の基本になって行ったことを記しているのです。同時に、イエス様は伝道のために用いた家を粗末に扱ったり、その家族を虐げたりはなさらなかった、むしろ、恵みと祝福を注がれたと教えてくれる（＝癒しの話というより）出来事だったのです。確かにペトロは、イエス様がカファルナウムを去られる時、この「家」を後に残し、主に従ったのですが、だからこそ、神様はこの「シモンの家、家族たち」にも祝福を与えられたのです！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 1月15日(水) 20:00
II. 1月16日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙
祈祷主題: 生花奉仕者を覚えて
担当者: (水) 保坂 (木) 柿澤
祈りに覚える人: 坂田さん 佐藤さん

【教勢報告】

主日礼拝 男 21 女 51 計 72
祈祷会 I. 男 4 女 1 計 5 II. 男 2 女 9 計 11
日曜学校 幼稚科 4 小中科 2 計 6

【次週礼拝】 1月 19日(日)

聖書: ヨブ記 42:1~6
ルカによる福音書 5:1~11
説教: 「ルカ③—イエス様に従うこと！」
武田真治牧師

【次週当番表】 29(1)

司式: 羽倉長老 奏楽: 中村 礼拝: 金刺長老
献金: 相浦 青島 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 木村 小杉 富澤 長田
橋本 北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会
礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会
・日曜学校教師会・幼稚園理事会
・オリブの編集委員会

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2025年 1月 12日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>